

目次

2011年新刊のご案内	2
新刊・これから刊行する テキストのご紹介	8
これから刊行する書籍のご案内	9

未 発

2011年

ジ ュ ニ ア 版
【ひつじ書房新刊・近刊案内】

▼房主より

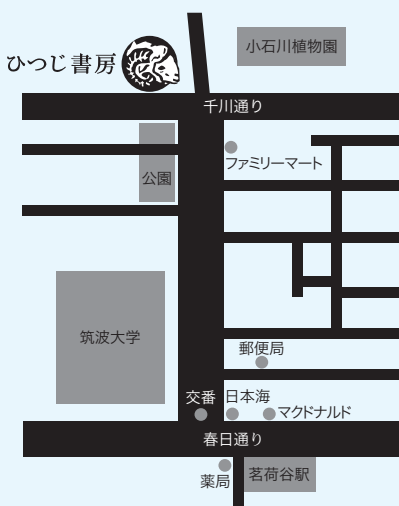
加藤哲夫さんの〈遺言〉

ひつじ書房の著者である加藤哲夫さんが、8月にお亡くなりになりました。NPOの世界をリードしてきた方です。ひつじ書房からは『市民の日本語』を2002年に出しています。62歳の誕生日を目前にしての早すぎる旅立ちでした。8月の頭に余命1月と言われたということで、ひつじ書房から対談集の刊行をしたいとご連絡をいただきました。学会が山形であり、その機会を生かして仙台のホスピスまでお見舞いに行ってきました。東北の被災地をこの機会に自分の目で見たいと思い、車で石巻まで行ってきました。

対談の相手は松岡正剛さんと上田紀行さんで、総時間数は8時間に及びます。テープ起こしたテキストを整え、松岡さんと上田さんに原稿を見てもらうべくすすめています。

印象深い言葉がたくさんあります。その中に「市民の手に政策決定プロセスを取り戻す」というのがあります。政策を変えようというとき、中央政府に訴えるという陳情型になることが多いでしょう。それは大事なことです。そもそも、政策はだれが決めるものなのか、たとえば、ドイツでは地方の州レベルで文化・教育政策を決めているそうです。

地域の言語政策、それには言語教育政策も含まれるわけですが、自分たちの力で作り出すという考えは魅力的です。急ぎ足で申上げると近代化のプロセスで国語教育のコアな目的は、標準語を普及し、読み書きができるようにすることであったでしょう。上で決められたものを理解する能力でした。国語を理解することについては、ラジオをはじめとするマスメディアによって成し遂げられました。近代の国語教育のミッションは、実現されてしまったということになります。21世紀のミッションは何かと問うなら、21世紀が、市民が政策策定プロセスに参加する時代になるべきであるのならば、21世紀の国語教育の目的は「政策決定プロセスに参加できる言語的能力の養成」なのではないでしょうか。この言語能力を「市民の日本語力」と呼びましょう。加藤さんのひつじへのいわば〈遺言〉は、そういう力を実現するために必要なことを見つけていき、そういうものを生み出すことを出版社としてサポートすることなのだろうと私は受け止めています。



● オープンオフィスの期間や学術書の出版の相談については、ひつじメール通信やひつじ書房のHP上で、詳細をお伝えします。オープンオフィスの期間以外でもご相談はいつでも応じますが、連絡方法はひつじメール通信とHP上でお伝えします。

科研費申請をお考えの場合は、余裕をみてご相談下さい。

<http://www.hituzi.co.jp/hituzi-mi/index.html>

2011年＊新刊のご案内

ひつじ研究叢書（言語編）

第87巻 中古語過去・完了表現の研究

井島正博著 A5判・600頁・978-4-89476-498-9 定価 6,400円＋税 発行 2011.2

本書は、中古語の言語事実に即して文法理論そのものも作り変えるべきことを主張する。テンスについては、物語の現在の出来事を表わす場合、物語の世界に視点がある場合がφ（言い切り）、物語の外の表現の世界に視点を置いて描く場合がケリ、また物語の過去を描く場合がキであると考え。アスペクトについては、基準時が事態の開始部分にあればヌ、継続部分にあればリ・タリ、終了部分にあればツが用いられると考えるなど、これまでにない見解を提示する。従来の研究史および網羅的な研究文献目録も付す。

第91巻 コーパス分析に基づく認知言語学的構文研究

李在鎭著 A5判・262頁・978-4-89476-531-3 定価 7,200円＋税 発行 2011.2

認知言語学の枠組みで、日本語の構文現象の解明を試みた理論的・実証的研究。理論面の特徴としては認知言語学・構文文法に基づく本格的な日本語研究であり、語彙と文法を統合した表現のスキーマから構文現象を定式化した。また方法論面においてはコーパスを使った用法基盤分析の実践を目指している。本書によって日本語研究における構文文法的アプローチの活発化と同時に、コーパス基盤の言語研究が活性化されることを期待する。

第92巻 バントゥ諸語分岐史の研究

湯川恭敏著 A5判・328頁・978-4-89476-532-0 定価 8,900円＋税 発行 2011.2

アフリカ全体の3分の1強の地域に分布するバントゥ諸語が、1つの祖語からどのように分岐して、現在の地域で話されるようになったのか。本書は、著者が100を越えるバントゥ系言語の語彙と文法を調査した膨大なデータを元に、基礎語彙の比較から、言語間遠近関係を判定し、バントゥ諸語の分岐の歴史に関して説得力ある仮説を提示する。1995年刊行の前著と共に、バントゥ諸語の姿を明らかにするものである。

第93巻 現代日本語における進行中の変化の研究 「誤用」「気づかない変化」を中心に

新野直哉著 A5判・416頁・978-4-89476-533-7 定価 6,400円＋税 発行 2011.2

本書は、“役不足”“なにげに”「全然」＋肯定のような一般に「誤用」として知られる言語変化の事例や、“いやがうえにも”“返り討ち”“ていたらく”“万端”といった、実際には変化が相当進行していながらほとんど注目されてこなかった《気づかない変化》の事例など、現代日本語における様々な進行中の変化について、筆者が約20年にわたり行ってきた研究の成果をまとめたものである。

ひつじ意味論講座

ひつじ意味論講座 第1巻 語・文と文法カテゴリーの意味

澤田治美編 A5判・268頁・978-4-89476-501-6 定価 3,200円＋税 発行 2010.12

1. 語の意味をめぐる（国広哲弥）2. 多義性とカテゴリー構造（松本曜）3. 文の意味と真偽性（阿部泰明）4. 否定の諸相（今仁生美）5. 日本語のテンスとアスペクトの意味の体系性（須田義治）6. ヴォイスの意味（鷲尾龍一）7. 意味役割（菅井三実）8. 動詞の意味と統語構造（影山太郎）9. 形容詞の意味―「多い」を中心として（久島茂）10. 名詞句の意味（西山佑司）11. 代名詞の意味（神崎高明）12. 不定冠詞の役割（樋口昌幸）

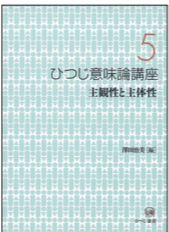
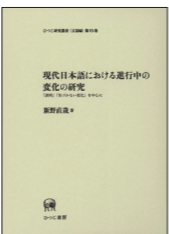
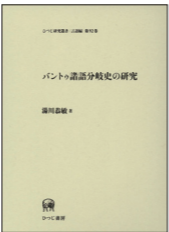
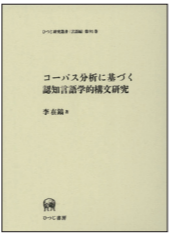
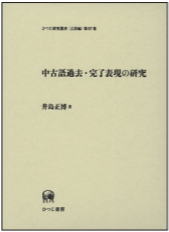
ひつじ意味論講座 第5巻 主観性と主体性

澤田治美編 A5判・296頁・978-4-89476-505-4 定価 3,200円＋税 発行 2011.6

1. Subject―主語・主観―をめぐる哲学的断片（大庭健）2. モダリティにおける主観性と仮想性（澤田治美）3. 日本語と主観性・主体性（池上嘉彦）4. 主観性に関する言語の対照と類型（上原聡）5. 文法化と主観化（秋元実治）6. 日本語における文法化と主観化（青木博史）7. 共同注意と間主観性（本多啓）8. 英語形容詞の主観性（八木克正）9. 日本語のダイクシス表現と視点、主観性（澤田淳）10. 日本語思考動詞の主観性（小野正樹）11. 日英語の主観性を表す副詞について（森本順子）12. 敬語と言語主体―敬意・主観性・モダリティ（滝浦真人）

●今後の刊行予定

第4巻	モダリティII：事例研究	A5判・978-4-89476-504-7	定価 3,200円＋税	2012年1月刊行予定
第2巻	構文と意味	A5判・978-4-89476-502-3	定価 3,200円＋税	2012年2月刊行予定
第6巻	意味とコンテクスト	A5判・978-4-89476-506-1	定価 3,200円＋税	2012年3月刊行予定
第3巻	モダリティI：理論と方法	A5判・978-4-89476-503-0	定価 3,200円＋税	2012年3月刊行予定
第7巻	意味の社会性	A5判・978-4-89476-507-8	定価 3,200円＋税	2012年5月刊行予定



シリーズ言語学と言語教育

22 児童の英語音声知覚メカニズム L2学習過程において

西尾由里著 A5判・304頁・978-4-89476-524-5 定価 8,700円＋税 発行 2011.2

なぜ日本人はMacdonaldを「マクドナルド」と発音し、「マクドーナルド」と発音できないのか。本書は、英語母語話者がMacdonaldをMac.don.aldのように音節に分ける一方、日本人はMa.c(u).do.na.l(u).d(o). というように、日本語的にモーラ単位で知覚していることが、発音の違いの大きな要因であることを明らかにした。さらに、小学生のどの時期にどのくらいの量を学習すると英語母語話者のように音節で聞き取れるようになるかを解明した。研究者・学生・小中高大学教員および早期英語教育に興味のある親に必読の一書である。

23 学習者オートノミー 日本語教育と外国語教育の未来のために

青木直子・中田賀之編 A5判・288頁・978-4-89476-539-9 定価 4,800円＋税 発行 2011.3

時代の変化に対応した新しい形の言語学習を可能にするものとして、外国語教育や日本語教育の関係者の間で、学習者オートノミーへの関心が高まっている。本書は、学習者オートノミーの研究と実践のエッセンスを紹介することを目的として編まれた論文集で、アンリ・オレック、デビッド・リトル、フィル・ベンソンら学習者オートノミー研究の第一人者が執筆者に名を連ねている。学習者オートノミーに関して日本語で読める初めての本格的な書。英語版：*Mapping the Terrain of Learner Autonomy: Learning environments, learning communities and identities.* 2009. Tampere, Finland: Tampere University Press.

24 日本語教育のためのプログラム評価

札野寛子著 A5判・224頁・978-4-89476-558-0 定価 6,600円＋税 発行 2011.5

社会的使命を担う日本語教育活動では、プログラム評価はその責任の一端であるとの思いで取り組んだ実践的な研究。プログラム評価の歴史的 発展経緯や理論的な背景、過去の外国語教育での評価事例を踏まえ、日本語教育プログラムを想定した評価像を描き出す。また、評価を専門としない者でも実践できる「12ステップ」など具体的な方策を紹介。このステップに則って行なった日本語教育プログラムの評価事例を検証し、今後の評価の在り方を論ずる。

国際交流基金 日本語教授法シリーズ〈全14巻・完結しました〉

第3巻 文字・語彙を教える

木田真理・篠崎摂子・中村雅子・濱川祐紀代著

B5判・132頁・978-4-89476-303-6 定価 1,100円＋税 発行 2011.3

とかく単調になりがちな文字や語彙の学習を、楽しく継続的に取り組めるようにするにはどうしたらよいか、認知・記憶・動機づけの面から考える。導入や練習におけるさまざまな工夫、段階的に指導する方法など、日本語教師が教育現場で必要な情報をわかりやすく提示するとともに、世界の日本語教師の具体的な取り組み(活動例・教材例)も豊富に紹介する。そして、それぞれの活動の目的、実践する際の組み立て方や注意点をタスク形式で考える。

第10巻 中・上級を教える

藤長かおる・久保田美子・木谷直之著

B5判・200頁・978-4-89476-310-4 定価 1,300円＋税 発行 2011.3

中級レベル、上級レベルとはどのようなレベルなのか。この教材では、多様化する学習者のニーズを考慮して中級・上級レベルではどのような能力を育成すれば良いのかを考える。その上で、複数の技能を組み合わせて現実的な運用に結びつける方法を検討する。さらに国内外のさまざまな教授環境のもとで、どのようなリソース(人・もの・場所)が実際に活用できるのかという点を重視し、具体的な教室活動の作り方や授業全体の流れを実際例とともに考える。

第12巻 学習を評価する

横山紀子・押尾和美・大隅敦子著

B5判・148頁・978-4-89476-312-8 定価 1,100円＋税 発行 2011.3

評価は、教師と学習者が学習成果を共有し、今後の方向性を考えるための材料である。また、学習の動機にも大きな影響を及ぼす。この教材では、目的に応じたテストの作り方、テスト結果の分析やフィードバックのしかたなど、評価に関する基本的な理論や方法を実践例とともに解説する。知識を測るだけでなく、技能や運用を評価する方法(インタビュー・テスト、ポートフォリオ評価、Can-Do-Statementsなど)も積極的に紹介する。



中国現代文学

中国現代文学 7

中国現代文学翻訳会編　A5判・208頁・978-4-89476-556-6　定価 2,000 円＋税　発行 2011.5

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第7号。掲載作品：劉慶邦「月は遙かに」(中秋節に出稼ぎ先から村に帰ってきた夫は…)、残雪「埋葬」(男は慣れ親しんだものを次々に埋めていき…)、畢飛宇「虹」(高層マンションに暮らす老夫婦は不思議な少年に出会い…)、蘇童「キンモクセイ連鎖集団(チェングループ)」(嘘つきリウは都会でキンモクセイを売り始めたが…)、史鉄生「Mの物語」「B先生」(“反動”と呼ばれて孤立した少女は…／少年にとって理想だった先生…)。このほか、昨年未急逝した史鉄生に関する解説・資料などを掲載する。

中国現代文学 8

中国現代文学翻訳会編　A5判・176頁・978-4-89476-574-0　定価 2,000 円＋税　発行 2011.10

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第8号。蘇童「西瓜舟」(毎年夏にやってくる西瓜売りの舟で事件は起こった…)、遲子建「北極村童話」(少女は最北の村で不思議な老女に出会う…。作者の原点となる作品)、徐則臣「養蜂場旅館」(旅先の宿の女将から意外な事を告げられた男は…)、劉慶邦「いちめんの白い花」(村を訪れた女性画家と村人たちとの心暖まる触れ合い)、史鉄生「荘子(ジュアンズ)」(1976年の夏、19の少年は集団武闘の中で死んだ…)などを掲載。

言語学

言語学翻訳叢書 12 **ことばの裏に隠れているもの**　子どもがメタファー・アイロニーに目覚めるとき
エレン・ウィナー著　津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ訳
A5判・264頁・978-4-89476-537-5　定価 3,200 円＋税　発行 2011.2

本書は、アメリカの心理学者でボストンカレッジ教授、Ellen Winnerによる *The Point of Words: Children’s Understanding of Metaphor and Irony* (1988)の全訳。子どものメタファー・アイロニーの習得過程、それらの習得がなぜ遅いかの解明への試みである。認知言語学などのメタファー研究、発達心理学の「心の理論」、語用論などのメタファー、アイロニー研究をユニークな視点で結びつけており、初等教育における日本語・英語の指導、障害児の文字通りでない言語理解が注目される今こそ、研究者、学生、自閉症・アスペルガー症候群の子どもの教育者、子を持つ親に読んでほしい一冊である。

認知言語学論考 No.9

山梨正明他編　A5判・284頁・978-4-89476-530-6　定価 4,200 円＋税　発行 2010.12

初山洋介　百科事典の意味観／深田智　セッティング主語構文の発現と拡張―“The garden is swarming with bees.”タイプの事例を中心に―／長谷部陽一郎　構文のネットワークモデルについて：二重目的語構文を中心に／野呂健一　現代日本語の名詞反復構文―構文文法と類像性の観点から／木原恵美子　転移修飾表現の修飾構造とその動機付け／横森大輔　認知と相互行為の接点としての接続表現：カラとノデの比較から／Yuki-Shige Tamura and Miyagi Sadamitsu　Bridging the Gap between Grammar Instruction and Cross-CulturalCommunication: Some Applications of Cognitive Linguistics to EFL Classrooms

神奈川大学言語学研究叢書 1 **発話と文のモダリティ**　対照研究の視点から

武内道子・佐藤裕美編　A5判・274頁・978-4-89476-536-8　定価 6,000 円＋税　発行 2011.3

12名の著者によるそれぞれ研究対象とする言語(日本語、英語、ロシア語、韓国語、スペイン語)におけるモダリティ、モーダルについての認知語用論、統語論、意味論の視点からの論考。神奈川大学共同研究奨励助成プロジェクト「モダリティ・プロジェクト」による論集。執筆者：相原昌彦、長谷川信子、岸本秀樹、松井智子、佐藤裕美、武内道子、寺崎英樹、堤正典、上田由紀子、内田聖二、Deirdre Wilson、山本多恵子、尹亨仁。

The Proceedings of the Twelfth Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP2011)

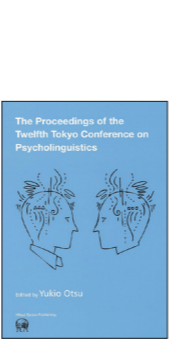
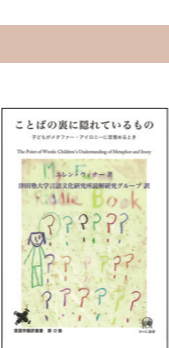
大津由紀雄編　菊判・290頁・978-4-89476-581-8　定価 9,800 円＋税　発行 2011.11

慶應義塾大学でおこなわれている東京言語心理学会議(Tokyo Conference on Psycho-linguistics)の第12回大会の研究発表／講演集(英語)。

Hisatsugu Kitahara / Jeffrey Lidz / Cedric Boeckx / Ao Chen and René Kager / Ying Deng, Hajime Ono and Hiromu Sakai / Yasuhiro Iida / Youngmi Jeong / Barış Kahraman, Atsushi Sato, Hajime Ono and Hiromu Sakai / Marina Kalashnikova and Karen Mattock / Qiong-peng Luo and Stephen Crain / Rieko Okabe / Rieko Okabe, Yuki Kobayashi and Takane Ito / Koji Shimamura / Koji Sugisaki / Hideaki Yamashita

松尾芭蕉

21世紀日本文学ガイドブック



21世紀日本文学ガイドブック

佐藤勝明編　A5変判・256頁・978-4-89476-512-2　定価 2,000 円＋税　発行 2011.10

松尾芭蕉の人とその文学を知るための入門書。韻文史に芭蕉が登場した意義をはじめ、その生涯、摂取した先行文学、蕉門の人々、関連する俳書、主要研究書などを紹介。さらに筆跡の問題、紀行文や俳論の特色、当代俳壇での位置や後世への影響など芭蕉に関する興味深いトピックを集めた。執筆者：佐藤勝明・伊藤善隆・金田房子・中森康之・越後敬子・大城悦子・黒川桃子・小財陽平・山形彩美・小林孔・金子俊之・永田英理・竹下義人・玉城司。

未発選書 17 **新編　言葉の意志**　有島武郎と芸術史的転回

中村三春著　四六判・552頁・978-4-89476-529-0　定価 4,800 円＋税　発行 2011.2

印象派から未来派まで、短時日のうちに芸術史を駆け抜けた孤高の作家・有島武郎の文学と思想の軌跡を、『或る女』『惜みなく愛は奪ふ』『星座』など代表作を網羅して執拗に追究した。近代の総決算でもあり、現代の出発点ともなったその転回の様相を、〈創造的生命力〉〈小説構造論〉〈芸術史的転回〉〈表象のパラドックス〉の4つのキーワードに即して縦横無尽に論じ切った、著者のテキスト文芸学の到達点。旧版を大幅に拡充した増補改訂版。

ひつじ研究叢書(文学編) 3 **平家物語の多角的研究**　屋代本を拠点として

千明守編　A5判・308頁・978-4-89476-578-8　定価 8,500 円＋税　発行 2011.11

本書は、平成20年度～22年度科学研究費補助金による共同研究「平家物語の初期形態に関する多角的研究－屋代本を拠点として－」の、3年間にわたる研究成果（調査・報告・講演・シンポジウム）をまとめたものである。研究範囲は、文学研究から言語研究、歴史研究に及び、平家物語研究の新しい時代を切り開く。執筆者は、佐倉由泰、佐々木孝浩、吉田永弘、千明守、伊藤悦子、松尾葦江、大谷貞徳、原田敦史、多ヶ谷有子、内田康、山本岳史、野口実、佐伯真一、高橋典幸、坂井孝一。

あいまいなのは日本語か、英語か？

日英語発想の違い
今井邦彦著　四六判・176頁・978-4-89476-526-9　定価 1,680 円＋税　発行 2011.2

「英語圏の人の言うことは論理的で明白だが、日本人の発話は曖昧で不明瞭なことが多い」という一種の迷信を抱いている人の数は少なくない。本書はまさしくその逆を主張する。英語国民は、意図的に、実際に口に出す意味よりもたくさんの意味を相手に伝えようとする。つまり、自分の心を相手に読ませる部分を(日本人に比べて)多くする傾向がある。これが「英語らしい英語」の大きな特徴なのだ。著者は、数多くの実例に基づいて、この新説を説得的に披露展開する。

2番教室からの日本語講座

添田建治郎著　四六判・248頁・978-4-89476-557-3　定価 2,000 円＋税　発行 2011.7

昨今、英語教育重視の風が吹き荒れているが、日本人は日々日本語で考え、表現している。日本語はそんな日本人の心を映し省みる大切な鏡である。著者は、大学で日本語学関連の授業を通じて、「かけがえのない言葉」である日本語の持つその特徴・働きを、学生と共に考えてきた。日本語に巡り会い、少しずつ理解を深め、再認識していく学生たちの様子を描いた、若い世代に語りかけ次世代に託す一書である。

ことばに向かう日本の学知

釘貫亨・宮地朝子編　A5判・336頁・978-4-89476-559-7　定価 6,200 円＋税　発行 2011.10

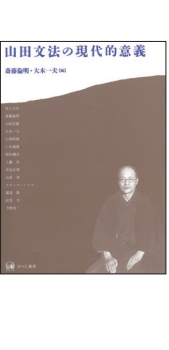
本書は、2010年9月に開催された名古屋大学グローバルCOEプログラム第9回国際研究集会「ことばに向かう日本の学知」を元にした論文集である。第一線の研究者によるすべての講演および発表について事後の進捗を反映した15本の論考を収め、開催責任者・釘貫亨の序論を付す。音韻学史、文法学史、方言学史、また伝統的学史から科学史にいたるまで、学史をテーマとし広く日本語に向かう学知を包括的に論じた初の試みである。執筆者：カレル・フィアラ、金銀珠、宮地朝子、小柳智一、松澤和宏、狩俣繁久、李漢燮、ズデンカ・シュヴァルツォヴァー、釘貫亨、山東功、安田尚道、肥爪周二、岡島昭浩、齋藤文俊、今野真二(掲載順)。

山田文法の現代的意義

斎藤倫明・大木一夫編　A5判・320頁・978-4-89476-534-4　定価 4,400 円＋税　発行 2010.12

本書は、2008年11月に、山田孝雄没後50周年・『日本文法論』刊行100周年を記念して東北大学で開催されたシンポジウム「山田文法の現代的意義」を基にした論文集である。当日のパネリスト4名(仁田義雄・斎藤倫明・山東功・尾上圭介)の他に、山田文法を含む近代文法学に造詣の深い10名の研究者に新たに声を掛け、あらためて山田文法の有する現代的意義について様々な観点から究明した。執筆者：石神照雄、井島正博、大木一夫、尾上圭介、釘貫亨、工藤浩、小針浩樹、今野真二、斎藤倫明、山東功、ナロック・ハイコ、仁田義雄、野村剛史、服部隆。

松尾芭蕉



日本語の対人関係把握と配慮言語行動

三宅和子著　A5判・332頁・978-4-89476-472-9　定価 3,800円＋税　発行 2011.1

談話の分析を通して、日本語の対人関係の把握の仕方とその背景にある価値観や世界観との関連を考察する。言語コミュニティにおける人々の「配慮」のとらえ方は言語表現の現れ方に影響を与える。近年メディアの言語生活への浸透が著しいが、日本語社会の言語行動規範にも変化が現れているだろうか。ポライトネスとも関連づけながら、対面のコミュニケーションとケータイメール・コミュニケーションの研究を通して究明する。

合本　女性のことば・男性のことば(職場編)

現代日本語研究会編　A5判・536頁・978-4-89476-579-5　定価 6,000円＋税　発行 2011.5

遠藤織枝氏をはじめとした、現代日本語研究会による『女性のことば・職場編』『男性のことば・職場編』。長らく品切が続いており、お問い合わせが多かったので合本版として復刊。付属のCD-ROMに生の談話テキストデータを収録している。実際の話し言葉に近いコーパスとして談話研究・日本語研究に必須の1冊。

認知言語学研究の方法

辻幸夫監修　中本敬子・李在鎬編　A5判・278頁・978-4-89476-520-7　定価 2,800円＋税　発行 2011.3

認知言語学の代表的研究法として、作例と内省による研究、コーパス研究、心理実験・調査を紹介した入門書。各研究方法の特色や、実際の研究の進め方を具体的に解説している。また、最先端の研究を例に、実際の研究がどのように行われたかを紹介している。卒論、修論で初めて認知言語学研究を行う学生の他、研究法の幅を広げたいと考える研究者のニーズにも応える内容である。執筆者：辻幸夫、中本敬子、李在鎬、黒田航、松本曜、加藤鉦三、玉岡賀津雄、大谷直輝、楠見孝。

Referent Markings in L2 Narratives

Effects of Task Complexity, Learners’L1 and Proficiency Level
中浜優子著　菊判・252頁・978-4-89476-535-1　定価 12,000円＋税　発行 2011.3

日本語学習者が如何に形式と意味のマッピングをしながら、結束性のあるナラティブを産出するのかを、指示対象の言及という観点から考察。近年、第二言語習得研究で注目されている“タスク”に着目し、タスクの種類とナラティブ談話構成との関係について、学習者の母語・言語習熟度という視点から解明を試みた点が意義深い。教育学的示唆にも富んでおり、研究者はもとより、語学教育者にとっても有用性が高く、教育現場にも還元できる研究書。

日本語教育文法のための多様なアプローチ

森篤嗣・庵功雄編　A5判・368頁・978-4-89476-569-6　定価 3,400円＋税　発行 2011.10

日本語文法研究によって示された体系を、実際にどう使いこなすべきかを示す「日本語教育文法」はこれからの分野である。この分野に多くの参入を促すべく、本書は日本語教育文法のための方法(コーパス調査はもちろん、日本語教科書調査、語彙表調査、アンケート調査、言語使用調査、授業実験、統計分析など)を用いたケーススタディと、その解説を収録している。日本語教育文法を志す研究者や院生に向け、具体的な方法を提示した1冊である。

社会参加をめざす日本語教育

社会に関わる、つながる、働きかける

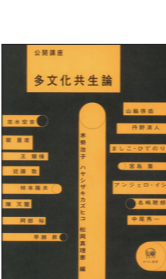
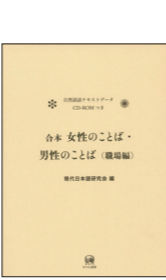
佐藤慎司・熊谷由理編　A5判・340頁・978-4-89476-538-2　定価 3,800円＋税　発行 2011.8

本書は、日本語教育の現状における様々な問題点を乗り越えるために日本語教室で行った実践を「社会参加」をキーワードとして分析、考察したものである。カタカナ、ブログ、ポッドキャストプロジェクトの3つの実践から構成されており、様々な視点から実践を分析しその可能性と問題点を考えた。このような学際的な協働思考の試みを1冊の本にすることで、「社会参加」を目指す日本語教育の新たなビジョンを読者に提供する。

公開講座 多文化共生論

米勢治子・ハヤシザキカズヒコ・松岡真理恵編
A5判・404頁・978-4-89476-523-8　定価 2,800円＋税　発行 2010.2

浜松学院大学が実施した文部科学省委託事業「多文化共生社会の構築に資する日本語教員養成プログラム」の一環として行なった公開講演会の記録である。日本人住民と外国人住民との共生を考え、多文化共生社会を担う子ども達の未来を考えることは、日本社会を見直すことにほかならない。その学問領域は、周辺領域も含め多岐にわたる－社会学、法律学、教育学、言語学、心理学など、それぞれの領域の研究者、実践者、当事者が「今」を伝える。



成長する英語教師をめざして

新人教師・学生時代に読んでおきたい教師の語り
柳瀬陽介・組田幸一郎・奥住桂編　A5判・256頁・978-4-89476-542-9　定価 2,600円＋税　発行 2011.8

本書は、英語教師を目指す若者にこれからの見通しを与え、かつさらに広い読者層に日本で英語を教育することの「意味」を示す書である。英語教師の実態を、実践者・経験者ならではの具体的なエピソードや教員としての充実感を盛り込みながら描く。自らが観察した現実を、もう一度自分で分析し直すことによって、「虫の目」と「鳥の目」の両方を兼ね備えたような見通しのよい記述を目指し、単なる「上から目線」ではない教師としての本音を描く。

マルチリンガル教育への招待

言語資源としての外国人・日本人年少者
中島和子編著　A5判・428頁・978-4-89476-446-0　定価 3,200円＋税　発行 2010.12

将来のマルチリンガルな日本の可能性を踏まえて、年少者の言語教育、特にマイノリティー言語を母語とする外国人児童生徒の日本語教育、母語・継承語教育がどうあるべきか、カナダ、アメリカ、日本の実践例を踏まえて、カミンズ提唱の2言語共有説に関する実証的研究(中島・生田・桶谷 2006)を中心に、現場教師、大学(院)生、ボランティアのために具体的に書き下ろしたもの。生活言語・学習言語の評価に関する情報も含む。共同執筆者：生田裕子、桶谷仁美。

可能性としてのリテラシー教育

21世紀の〈国語〉の授業にむけて
助川幸逸郎・相沢毅彦編　A5判・234頁・978-4-89476-565-8　定価 2,300円＋税　発行 2011.10

この十数年で、情報の伝えられ方は想定できなかったほどの変化を遂げた。この新しい状況に対応した読解力、表現力とはどのようなものかを考え、21世紀の国語教育がいかにあるべきかを提唱する。現場の教員や国語教育の研究者のみならず、音楽学者や物理学者、フランス文学研究者などの意見も結集させ、こうした時代だからこそ、文学教育にできることを問いかける書。2010年9月に行なわれた、ひつじ書房創立20周年記念シンポジウムをもとに、新たな執筆者を迎えて編集。

21世紀における語ることの倫理

〈管理人〉のいない場所で
助川幸逸郎・堀啓子編　A5判・194頁・978-4-89476-566-5　定価 2,000円＋税　発行 2011.10

雑誌、放送などの既存メディアには、編集者やプロデューサーといった、情報の価値を判断する〈管理人〉がいた。現在では、インターネットを通じて、誰のチェックを受けていない情報が、不特定多数の対象にむけて発信されている。こうした〈管理人不在〉の環境の中で、価値ある情報を見分け、情報がやりとりされる〈場〉を維持していくために、われわれがなしうることを考える。気鋭の文藝批評家や国際金融専門家などが参加して行なわれた、ひつじ書房創立20周年記念シンポジウムを母胎とする一書。

国定教科書はいかに売られたか

近代出版流通の形成　明治期書店販売関係資料付
和田敦彦編　A5判・352頁・978-4-89476-561-0　定価 8,800円＋税　発行 2011.3

日本の近代において、教科書というメディアが果たした役割は大きい。特に国定教科書は、全国に及ぶ販売、流通網を形成し、近代の出版、教育、文化と、多方面に幅広い影響を与えていった。本書は、明治期に整備されていくこの国定教科書の販売、流通の実態を、当時の書店の取引や契約の豊富な一次資料をはじめて利用することで、詳細にあとづけていった。あわせて、多くのこれら一次資料を翻刻し、収録しており、今後の教育史やメディア史、あるいは文化史を研究するうえでの貴重な基礎資料ともなる。

言語機械の普遍幻想

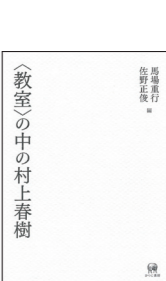
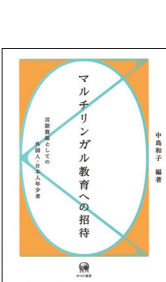
西洋言語思想史における「言葉と事物」問題をめぐって
浜口稔著　A5判・272頁・978-4-89476-553-5　定価 9,800円＋税　発行 2011.3

言葉と事物の対応は、西洋人にとって宿年の難題であり続けた。かつて言葉の理論とは即事物の理論(自然学・博物学)であったが、近現代の言語学は事物世界から離反した自律的立場を志向し、その難題を回避した。言葉の理論は一方で事物を制御する言語機械として展開し、近現代の言語学も機械論的な特徴を尖鋭化させた。この経緯は言語研究の学としての成立にも触れてくる。本書は、こうした言葉と事物の相関を西洋言語思想史に底流する觀念の歴史として浮き彫りにする。

〈教室〉の中の村上春樹

馬場重行・佐野正俊編　A5判・360頁・978-4-89476-551-1　定価 2,800円＋税　発行 2011.8

村上春樹の教科書掲載作品(翻訳含)について、新たな教材価値を発掘しようと試みた初の論集。〈教室〉の中に春樹文学を置いた時に浮上する新しい相貌を読者に提供し、文学研究と文学教育研究の両面から村上春樹の新たな可能性を引き出すことを企図して編集された。執筆者：内田樹／田中実／須貝千里／助川幸逸郎／齋藤知也他。対象作品：「青が消える」「レキシントンの幽霊」「鏡」「バースデイ・ガール」「七番目の男」「待ち伏せ」「ふわふわ」「沈黙」「アイロンのある風景」「パン屋再襲撃」「象の消滅」他。



第101巻 日本語の品詞体系とその周辺

村木新次郎著　A5判・978-4-89476-602-0

伝統的な学校文法や標準化しつつある日本語教育文法を是としない立場から、日本語のあるべき単語認定と品詞体系について提言した書。従来の文法が形式中心で、syntagmaticな側面に傾斜していたことを指摘し、意味・機能を重視し、paradigmaticな側面をとりこむ必要性を説く。形容詞をひろくとらえること、日本語の品詞として、後置詞、従属接続詞をみとめるべきであることなどを主張する。日本語の感動詞や節の類型にも言いおよび。

シリーズ言語学と言語教育

25 インターアクション能力を育てる日本語の会話教育

中井陽子著　A5判・978-4-89476-585-6

人と人が会話をして友好な関係を作っていくには、語彙・文法等の言語能力だけでなく、会話に参加していく社会言語能力や、実質的な行動していく社会文化行動といった「インターアクション能力」が必要である。本書は、こうした能力育成を目的とした日本語の会話教育を開発するための「研究と実践の連携」のあり方を提案するとともに、教育法案を具体的に提示した。特に、教師と学習者が会話データ分析をした成果を指導学習項目化し、それを教育実践に生かすプロセスを詳述した。

26 第二言語習得における心理的不安の研究

王玲静著　A5判・978-4-89476-586-3

第二言語習得における心理的不安の実態と本質を実証で明らかにする。日中両国の学習者の共通点と相違点を取り扱う点が、独創性がある。実践から提案する不安の軽減策は、研究者と教育者にとって非常に有益な情報となる。第二言語習得研究全般及び心理的不安の研究のレビューは、第二言語習得研究及び不安を含め動機づけなどの情意要因に関して勉強を始めようとする人にもぴったりの1冊。巻末に詳細なアンケート調査資料を付す。

27 接触場面における三者会話の研究

大場美和子著　A5判・978-4-89476-587-0

本書は、接触場面と内的場面の三者自由会話を対象に、話題開始の発話とそれに応答する発話に着目し、発話者、発話の方向、発話の種類、参加者の情報量という観点から分類を行い、二者会話とは異なる三者会話の実態を探ったものである。留学生が2人の日本人学生と日本語で話すのは困難なようではあるが、データからは参加者の役割調整の負担の軽減も観察され、多様な会話への参加の実態を教育現場で活用する可能性を示唆している。

Hituzi Linguistics in English

No.17 **Polysemy and Compositionality** Deriving Variable Behaviors of Motion Verbs and Prepositions

磯野達也著　菊判・978-4-89476-545-0

語彙意味論、特に生成語彙論(Generative Lexicon)の枠組みで、事象構造、特質構造の精緻化を図り、動詞と前置詞の多義性と意味の合成性を扱う。英語の移動、放出、状態変化などの動詞と前置詞、及び「まで」の意味構造を考察する。また、意味構造の(共)合成の条件を提案し、前置詞句が動詞の項または付加詞になる場合が、これにより区別されることを移動構文、場所格交替構文、場所格倒置構文などで議論する。

No.18 **fMRI Study of Japanese Phrasal Segmentation** Neuropsychological Approach to Sentence Comprehension

大嶋秀樹著　菊判・978-4-89476-595-5　定価 15,000 円＋税

fMRIによる神経心理学的アプローチからの日本語の句分節処理(phrasal segmentation)の研究。人間が文を処理する際の、phraseごとのまとまりに正しく区切ることができる能力の根拠となる脳の神経基盤を、fMRIにより明らかにした。句分節処理への統語領域、意味領域の関与を実証的手法で個別に特定し、言語学研究と言語処理研究のインターフェース部分の研究の今後の新展開に寄与する内容。fMRIによる言語研究の研究手法の事例をも示す。

ひつじ意味論講座

ひつじ意味論講座 第2巻 構文と意味

澤田治美編　A5判・978-4-89476-502-3　定価 3,200 円＋税

1. 認知のダイナミズムと構文現象(山梨正明)
2. 構文的意味とは何か(大堀壽夫・遠藤智子)
3. 二重目的語構文と与格交替(加賀信広)
4. 使役構文をめぐる(高見健一)
5. 結果構文の意味論(小野尚之)
6. 条件構文をめぐる(藤井聖子)
7. 尺度性と比較構文をめぐる(澤田治)
8. 場所句倒置構文をめぐる(奥野忠徳)
9. 壁塗り交替(岸本秀樹)
10. 中間構文の意味論の本質(吉村公宏)
11. 数量詞遊離構文とアスペクト制約(三原健一)
12. コーパス分析に基づく構文研究(李在鎭)

ひつじ意味論講座 第3巻 モダリティⅠ：理論と方法

澤田治美編　A5判・978-4-89476-503-0　定価 3,200 円＋税

1. モダリティの定義をめぐる(ハイコ・ナロック)
2. 論理学におけるモダリティ(飯田隆)
3. モダリティの類型論(堀江薫)
4. メンタル・スペース理論とモダリティ(坂原茂)
5. 日本語モダリティの分類(仁田義雄)
6. 英語モダリティの分類(澤田治美)
7. 文の意味的階層構造と叙述の類型(益岡隆志)
8. 現代日本語のモダリティをめぐる(田野村忠温)
9. 日本語モダリティの史的変遷(近藤森弘)
10. 古代語のモダリティ(高山善行)
11. ムードの意味(安藤貞雄)
12. スペイン語におけるムードとモダリティ(和佐敦子)
13. フランス語におけるムードとモダリティ(阿部宏)
14. ドイツ語におけるムードとモダリティ(宮下博幸)

ひつじ意味論講座 第4巻 モダリティⅡ：事例研究

澤田治美編　A5判・978-4-89476-504-7　定価 3,200 円＋税

1. 英語法助動詞のモダリティ(柏本吉章)
2. 英語モダリティと動機づけ(長友俊一郎)
3. 未来性とモダリティ(吉良文孝)
4. 日英語の認知的・証拠的モダリティと因果性(澤田治美)
5. 認知的モダリティとの意味的関連性からみた日英語の束縛的モダリティ(黒滝真理子)
6. 「だろう」とモダリティ(宮崎和人)
7. 否定・疑問とモダリティ(安達太郎)
8. 意志表現とモダリティ(土岐留美江)
9. 「のだ」の意味とモダリティ(野田春美)
10. 終助詞とモダリティ(半藤英明)
11. 副詞とモダリティ(杉村泰)
12. モダリティの比較対照研究(井上優)
13. 日本語教育から「日本語のモダリティ」を考える(守屋三千代)

ひつじ意味論講座 第6巻 意味とコンテクスト

澤田治美編　A5判・978-4-89476-506-1　定価 3,200 円＋税

1. 直示とコンテクスト(渡辺伸治)
2. 言語行為と発話のコンテクスト(久保進)
3. コンテクストと前提(加藤重広)
4. 意味と含み(清塚邦彦)
5. 関連性理論とコンテクスト(東森勲)
6. 論理的意味論におけるコンテクスト(野本和幸)
7. モダリティとコンテクスト(澤田治美)
8. メタファー理解プロセスと意味(中本敬子)
9. とりたてとコンテクスト(野田尚史)
10. 指示表現と結束性(庵功雄)
11. 感動詞とコンテクスト(冨樫純一)
12. しぐさと会話のコンテクスト(伝康晴)

言語学翻訳叢書

13 否定の博物誌

ローレンス・R・ホーン著　河上誓作・加藤泰彦監訳　濱本秀樹・吉村あき子訳　A5判・978-4-89476-577-1

本書は、否定研究の第一人者 Laurence R. Horn の大著 *A Natural History of Negation* (2001, 第2版)の翻訳である。自然言語の「否定」に関する先行研究を詳細に検討の上独自の分析を提示したもので、まさに否定研究のバイブルである。Horn は今回の翻訳に際し、本書を「第3版」と見なし「第3版の終章」を新たに書き加え、最新の否定研究の解説と文献を追加している。

14 社会言語学の方法 民族誌の視点から(仮)

デル・ハイムズ著　唐須教光訳　A5判・978-4-89476-604-4

社会言語学は単に社会における言語の役割や、社会と言語の相関関係を扱うのではなく、ハイムズによると、社会言語学としての言語学の視点を獲得することを意味する。すなわち、従来の言語学に対する批判の役割を持つものであり、具体的には「民族誌」的視点を提供するものでなくてはならない。本書はその理論的な根拠を与えるだけではなく、学際的な知見をどのように獲得、統合すれば言語記述がより、豊かなものになるかの処方箋も提供する。社会言語学の必読の基礎文献である。

社会言語学

社会言語科学シリーズ1 「配慮」はどのように示されるか(仮)

三宅和子・野田尚史・生越直樹編　A5判・978-4-89476-603-7

本書は、社会言語科学会設立10周年を記念して2009年3月に東京外国語大学で開催された2つのシンポジウム「配慮言語行動研究の新地平」と「アジア圏の社会言語科学」をもとに編まれた。社会言語科学が究明すべき現代的課題として取り上げられた2つのシンポジウムをもとに、登壇者がそれぞれの立場から新たに書き起こした「配慮」をめぐる多彩な視点をもつ論文集である。執筆者：井出祥子・植野貴志子、井上史雄、生越直樹、姜錫祐、高山善行、大坊郁夫、テキメン・アイシェヌール、西尾純二、野田尚史、日高水穂、彭国躍、ポリー・ザトラウスキー、三宅和子

21世紀日本文学ガイドブック④ 井原西鶴

中嶋隆編　A5変判・978-4-89476-511-5　定価 2,000 円＋税

西鶴の魅力や、最新研究成果をふまえながら、わかりやすく解説する。江戸時代初期の出版文化を視野に置き、西鶴の俳諧と浮世草子について、メディア史・東アジア文化史・テキスト構造など多様な観点から言及する。参考文献も豊富に掲載するので、学生には格好の参考書である。井上和人、染谷智幸、森耕一、森田雅也など、気鋭の研究者が執筆。

認知言語学論考 No.10

山梨正明他編　　A5 判・978-4-89476-583-2

遠藤智子　非規範的な文法使用の対人的・認知的動機―現代中国語会話における節末部我覺得を例に／久保田ひろい　絵文字は何を伝えるか―携帯メールにおける絵文字のパラ言語的機能とテキストの構造化／内田　論　フレーム意味論に基づいた言語研究―接統語の意味記述に焦点を当てて／尾谷昌則　装定用法における形容詞並置構文に関する一考察―総合的認知と離散的認知の観点から／吉川正人　スキーマの計算理論を求めて―漸進する統語発達過程の記述問題とその解法／有光奈美　対比・形状・数字に注目した日・英語における強意語の意味変化／古牧久典　トートロジ構文から迫る認知語用論

フランス語学の最前線 1

坂原茂編　　A5 判・978-4-89476-397-5

フランス語学の最先端の研究を取り上げるシリーズの第1巻。各巻は特集テーマ論文を主に、特集外論文も収め、さまざまな関心に応えられる論文集を目指す。収録論文は、フランス語学を基盤としながらも、広く一般言語学的視野を射程に収める。この巻は名詞句研究を中心に、冠詞、存在文、指示形容詞、否定、時間表現、使役構文などさまざまな研究を収録している。執筆者は、坂原茂、東郷雄二、春木仁孝、曾我祐典、井元秀剛、木内良行、田原いずみ、酒井智宏、小田涼、西村香奈絵の10名。

講座ドイツ言語学 第1巻

ドイツ語の文法論
岡本順治・吉田光演編　　A5 判・978-4-89476-571-9

ドイツ語文法の中でも特徴的なトピックをとりあげ、それらがどのように相互に関係しあっているかを示せるように心がける。共時的観点から、他言語との比較だけでなく、意味論や語用論との関連も重視する。取りあげるトピックは、動詞の位置、スクランプリング、中間構文、結果構文、受動態と使役、時制・アスペクト・モダリティ、自由な与格、名詞句の統語論とその意味、複合動詞、情報構造、心態詞である。執筆者は、大矢俊明、岡本順治、田中愼、田中雅敏、藤縄康弘、吉田光演の6名。

神奈川大学言語学研究叢書 2　モダリティと言語教育

(仮)
富谷玲子・堤正典編　　A5 判・978-4-89476-598-6

言語教育においてモダリティを適切に教えることは必ずしも容易ではない。本書では、日本語・中国語・韓国語・ロシア語・英語のそれぞれの各言語におけるモダリティ研究の最先端を紹介し、どのように言語教育に生かすことができるのか、言語教育に必要なモダリティ研究とは何かについて論じた。執筆者：砂川有里子、アインドレイ・ベケシュ、黒沢晶子、彭国躍、文彰鶴、佐藤由美・久保野雅史、堤正典、小林潔、富谷玲子、武内道子。

連用・連体を考える

(仮)
前田直子編　　四六判・978-4-89476-564-1

本書は、2010年12月に、ひつじ書房20周年を記念して学習院大学で開催されたシンポジウム「連用・連体を考える」を基にした論文集である。3組(4名)のパネリスト(前田直子、大島資生、橋本修・渡辺昭太)は、複文を中心に、連用・連体が相互に関わる諸現象を、現代日本語、あるいは古代日本語・日中対照研究の観点からも取り上げ、また講演(山東功)では、伝統的な文法用語「連用・連体」を「修飾」との関わりから論じた。

再構築した日本語文法

(仮)
小島剛一著　　A5 判・978-4-89476-601-3

日本語は、明快で論理的な表現もでき、曖昧模糊とした表現もできる素晴らしいコミュニケーション(およびコミュニケーション拒否)の手段である。すべての日本語話者にこの手段が有効に駆使できるように、他言語に由来する「人称」「数」「代名詞」「時制」「主語」などの無用な概念の呪縛を捨て去り、日本語に具わっている独自の豊かな構造に着目して再構築した新しい日本語文法を提唱する。

コースブック意味論

(仮)
ジェームズ・R・ハーフォード　ブレンダン・ハーシュレー　マイケル・B・スミス著
吉田悦子・川瀬義清・大橋浩・村尾治彦訳　　A5 判・978-4-89476-568-9

本書は、1983年に出版以来好評を博してきた現代言語学における意味論の入門書の改訂新版(2007年)の翻訳である。意味の基礎概念から、指示と意義、論理的意味、語用論の意味、談話の領域に加え、認知的意味まで、意味論の基本的なトピックが網羅されている。豊富な練習問題と丁寧な解説を軸とした実践的なコースブックとして、独自の構成スタイルを持つ。各章末に学習の手引きと復習課題を整備して、独習用テキストとしての利用価値も高い。

進化言語学の構築

藤田耕司・岡ノ谷一夫編　　A5 判・978-4-89476-594-8

進化言語学は言語能力の起源・進化を通じて人間の本性の根本的理解を目指す、学際色豊かな研究領域である。この新しい人間科学の最前線の姿を伝えるべく編集された本書は、言語学、認知生物学、生物人類学、脳機能イメージング、遺伝子進化学、ロボット工学、コンピュータ・シミュレーション等々、多彩な関連分野の第一線に立つ研究者たちによる全13章からなる我が国初の専門論文集である。巻末には白熱した討論会の模様も収録した。2012年3月『第9回言語進化の国際会議』(EVOLANG IX)京都大会開催記念出版。

近づく音と意味

オノマトペ研究の射程
篠原和子・宇野良子編　　A5 判・978-4-89476-596-2

近年、言語学ばかりでなく心理学や工学更にはアートと、様々な分野から注目されているのが、オノマトペである。音と意味、あるいは身体と言葉の結びつきと関わるこのトピックへの、多種多様な観点からの分析を紹介し、問題の核心へと迫ることを目指す。【1.音象徴】Brent Berlin、篠原和子・川原繁人、平田佐智子【2.文法とオノマトペ】喜多壮太郎、虎谷紀世子、秋田喜美、宇野良子・鍛冶伸裕・喜連川優、浜野祥子【3.発達の観点】佐治伸郎・今井むつみ、鈴木陽子【4.創造性の源】井上加寿子、深田智、夏目房之介【5.感覚の構成】大海悠太・宇野良子・池上高志、近藤敏之【6.アート・教育・産業への応用】渡邊淳司・早川智彦・松井茂、金子敬一・都田青子、坂本真樹【7.研究史】秋田喜美

日本語のアクセントと英語のアクセント

どこがどう違うのか
杉藤美代子著　　A5 判・978-4-89476-567-2

日本語は高さアクセント、英語は強さアクセントと言われてきたが、本当にそうなのか、両者はいったいどこがどうちがうのか、筆者は、これらを調べるために研究を始めた。そして数十年、次々と生じる疑問点について、発想の及ぶ限りの実験等を続けてきた。その過程で、日本語(特に関西アクセント)と英語のアクセントには思いがけない類似点があることを見出した。また、英語話者と日本語話者では文中のアクセントの使い方がまったく違うこと等も見えてきた。この書は、アクセントに関する入門書であり、多くの疑問点への回答書でもあります。ぜひご一読下さい。

これからのコロケーション研究

堀正広編　　A5 判・978-4-89476-548-1

英語教育・日本語教育・英語史・辞書学・文体等の各分野におけるコロケーション研究の第1人者が、これまでのコロケーション研究を概観・整理し、これからのコロケーション研究の可能性を様々な面から提示する。平成21年に行われた日本英語学会公開シンポジウム「これからのコロケーション研究」(堀正広、小屋多恵子、赤野一郎、田畑智司、渡辺秀樹)の発表者に加え、日本語については田野村忠温、コーパス利用の落とし穴に関しては大名力の各氏が執筆している。

言語研究の技法

データの収集と分析
滝沢直宏・藤村逸子編　　A5 判・978-4-89476-582-5

これからの言語研究において習得すべき分析方法を、最新の研究成果と共に紹介した入門書。文法、コロケーション、コミュニケーション、言語習得、音声等の研究における、コーパス、心理言語学的実験方法、音声分析機器などの活用法を示す。名古屋大学で『言語教育と言語情報プログラム』を担当する教員間の討論から本書は生まれた。執筆者：藤村逸子、滝沢直宏、大曾美恵子、大島義和、木下徹、山下淳子、杉浦正利、加藤高志、成田克史、大名力、笠井直美。http://www.gsid.nagoya-u.ac.jp/edu/new_edu_prgm/prgms/langedu_linginfo.html

言語研究のための正規表現によるコーパス検索

大名力著　　A5 判・978-4-89476-560-3

一見、文系の研究者には無関係と思われる正規表現も、うまく利用すれば「worthの後に最大3語挟んで-ingで終わる語(ただし、thing, something, anything, everything, nothing は除く)が続く」のような条件を指定しコーパスからデータを抽出することもでき、言語研究・言語教育にも大いに役立つ。本書では、このような言語研究に役立つ正規表現の使い方を基礎から上級まで段階的に解説しており、また、英語の例をもとに基礎を学んだ後は日本語や韓国語の検索方法に進むこともでき、自分の目的に合わせ正規表現を学ぶことができる。

Tagalog Grammar

A Theoretical Introduction
平野尊識著　　菊判・978-4-89476-549-8　定価 15,000円＋税

フィリピン諸語の1つであるタガログ語は、類型論関係の書物においてよく引用される。本書では、形態論的に対格型でもない、能格型でもないこと、主語と主題は明確に区別できること、名詞と動詞には区別があること、格標示は同時に名詞化機能を持つこと、動作者標示のngと被動作者標示のngは区別されることなどを、例文に基づいて明らかにした。類型論における問題点を整理しながら、タガログ語の文法を詳述したもの。

文革から「改革開放」期における中国朝鮮族の日本語教育の研究

本田弘之著　A5判・978-4-89476-591-7　定価 8,700円＋税

本書は中国朝鮮族の日本語教育が「満州国」消滅後、約30年を経て「再開」され、自律的に発展していった過程をフィールドワークとインタビュー調査により詳細に追ったものである。朝鮮族の人々は、かつて民族文化をはく奪する手段として使われた日本語教育を自分たちの民族教育を振興させるためのツールとして活用してきた。その教育の舞台となった民族中学における日本語教育を分析し、その教育が各方面に与えた影響を考察する。

日本語・国語の話題ネタ（仮）

森山卓郎編著　A5判・978-4-89476-541-2

「蔵人」はなぜ「くろうど」と読む？「ピアノをひく」と「風邪をひく」は関係がある？　ちょっとした小話が国語（日本語）の学びを楽しくする。文字表記、語彙、文法、方言、国語の教育など様々なトピック群に分け、「授業で使える小ネタ」、「実はちょっぴり聞きたかった疑問点」、「どうでもいいけどやっぱり知りたい言葉の豆知識」などを楽しく読める。国語に関わる全ての先生、日本語の先生、大学生の参考図書などに役立つ一冊。

学習・教授・評価のための日本語教育スタンダード（話技能）の作り方（仮）

日本語能力試験出題基準を利用して

山内博之編　金庭久美子・田尻由美子・橋本直幸・山内博之著　B5判・978-4-89476-463-7

日本語能力試験出題基準に収録されている実質語(約8000語)と機能語(約270語)を用いて日本語教育スタンダードの雛型を作成し、その作成方法を解説する。雛型の作成に際しては、実質語には「話題」「構文」という2つの情報を付し、機能語はパラディグマティックに対立するもの同士をまとめた。さらに、「言語活動のタイプ」「話題」「難易度」という3つの情報を付した約4000のロールカード(言語活動リスト)も付け加えた。

構想力と想像力　心理学的研究叙説

半田智久著　A5判・978-4-89476-588-7

現代社会では種々の構想が語られ、構想力の大切さが指摘されている。だが、構想やその力とは何なのか。辞書や哲学ではしばしば構想とは想像と同義としている。では求められる構想力とは想像力に他ならないのか。否だろう。では心理学は構想をどう捉えているか。記述が見あたらない。本書は想像とその力に関する探究を振り返り考察しつつ、構想とその力との差異と関係性をとらえ、人間精神の根幹で働くその活動に捜査の光を投じる。

日本統治期台湾と帝国の〈文壇〉

和泉司著　A5判・978-4-89476-590-0　定価 6,600円＋税

昭和初期、〈円本〉ブームや改造社をはじめとする雑誌の文学懸賞募集、芥川賞・直木賞の登場は日本帝国中の文学青年の欲望を刺激した。それは植民地台湾でも同様であった。植民地という抑圧的な時空の文学運動は何を目指し、挫折し、生き延びたのか。台湾人でただ一人『改造』懸賞創作に当選した作家・龍瑛宗を中心に、日本統治期台湾における日本語文学運動を追求し、植民地の日本語文学研究に新たな視点を提示した意欲作。

明治詩の成立と展開　学校教育との関わりから

山本康治著　A5判・978-4-89476-592-4　定価 5,600円＋税

明治19年の「学校令」を契機に新体詩が人々に認知され、新体詩ブームが巻き起こる。本書はその実態が実は教育現場での使用であったことを明らかにする。また、現在、多くの人が共有する、国語教育＝文学という国語教育観が、明治33年の「改正学校令」を契機とする、ヘルバルト派教育学の影響を受けての「美感」の養成の結果であることなど、豊富な史料を活用しながら、明治詩を学校教育の観点から捉え直し、これまでにない新しい切り口を示す。

高度経済成長期の文学（仮）

石川巧著　A5判・978-4-89476-597-9　定価 6,800円＋税

高度経済成長期の祝祭的な高揚感は、戦後日本が問題を〈忘却〉させ、〈記憶〉の再構成を促した。「やさしさ」が価値となり、モラトリアム感覚が蔓延した。本書では、この時代を近代の分節点と規定し、知性・大衆・愛欲・事件・教化という五つの概念を用いつつ、柴田翔、庄司薫、大江健三郎、川上宗薫、松本清張、吉川英治、三島由紀夫などの文学を読み解くとともに、万博、同棲ブーム、吉永小百合の表象といったトピックに迫った。

声で思考する〈国語教育〉〈教室〉の音声表現実践研究（仮）

中村佳文著　A5判・978-4-89476-605-1

本書は、自らの音声表現のあり方に疑問を抱き検証を続けてきた著者が、教育現場での実践を踏まえてその理論と効用をまとめものである。音声表現とは常に〈解釈〉との関連を考慮しつつ、「理解」と「表現」という目的をもって行なうべきであるとし、その具体的な方法論を提唱している。文学作品冒頭文・韻文(和歌・漢詩・近現代詩)・『平家物語』・『走れメロス』などを教材にした「声で思考する〈国語教育〉」の実践を理論化した一書である。

対話による学びへと続く道　学校改革「学びの共同体」づくりのナラティブ・エスノグラフィー

牧野由香里編著　A5判・978-4-89476-580-1

「学びの共同体」とは、21世紀の学校づくりに挑戦する人々が創り出す文化である。教師も子どもも学び合い育ち合う学校に地域や大学を巻き込む複合的なネットワークである。本書はその成長と変容の軌跡をたどり、「学びの共同体」づくりの実体に迫る。物語は登場人物の語りや映像から抽出した写真によって構成される。事実に基づき学校現場のドラマを緻密に再現することにより、「学びの共同体」を読み解こうとする試みである。

ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F
telephone 03-5319-4916 facsimile 03-5319-4917

e-mail: toiawase@hituzi.co.jp
www.hituzi.co.jp/

